

令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント

結果概要

文部科学省では、都道府県・指定都市教育委員会及び大阪府豊能地区教職員人事協議会(計68)が実施した公立学校教員採用選考試験の実施状況について、毎年度調査を実施している。このたび、令和3年度に実施された令和4年度採用選考の実施状況を取りまとめた。

○全体の競争率(採用倍率)は、3.7倍(平成3年度と同率で過去最低)で、前年度の3.8倍から減少

- ・採用者総数は、34,274人で、前年度に比較して793人減少
- ・受験者総数は、126,391人で、前年度に比較して7,876人減少
- ・全体の競争率は19自治体で増加、42自治体で減少

(注)「全体」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

○試験区分別の競争率(採用倍率)、採用者数、受験者数

【小学校】

競争率(採用倍率)は、2.5倍(過去最低)で、前年度の2.6倍から減少

- ・採用者数は、16,152人で、前年度に比較して288人減少
- ・受験者数は、40,636人で、前年度に比較して2,812人減少(うち 新卒256人増加、既卒3,068人減少)

【中学校】

競争率(採用倍率)は、4.7倍で、前年度の4.4倍から増加

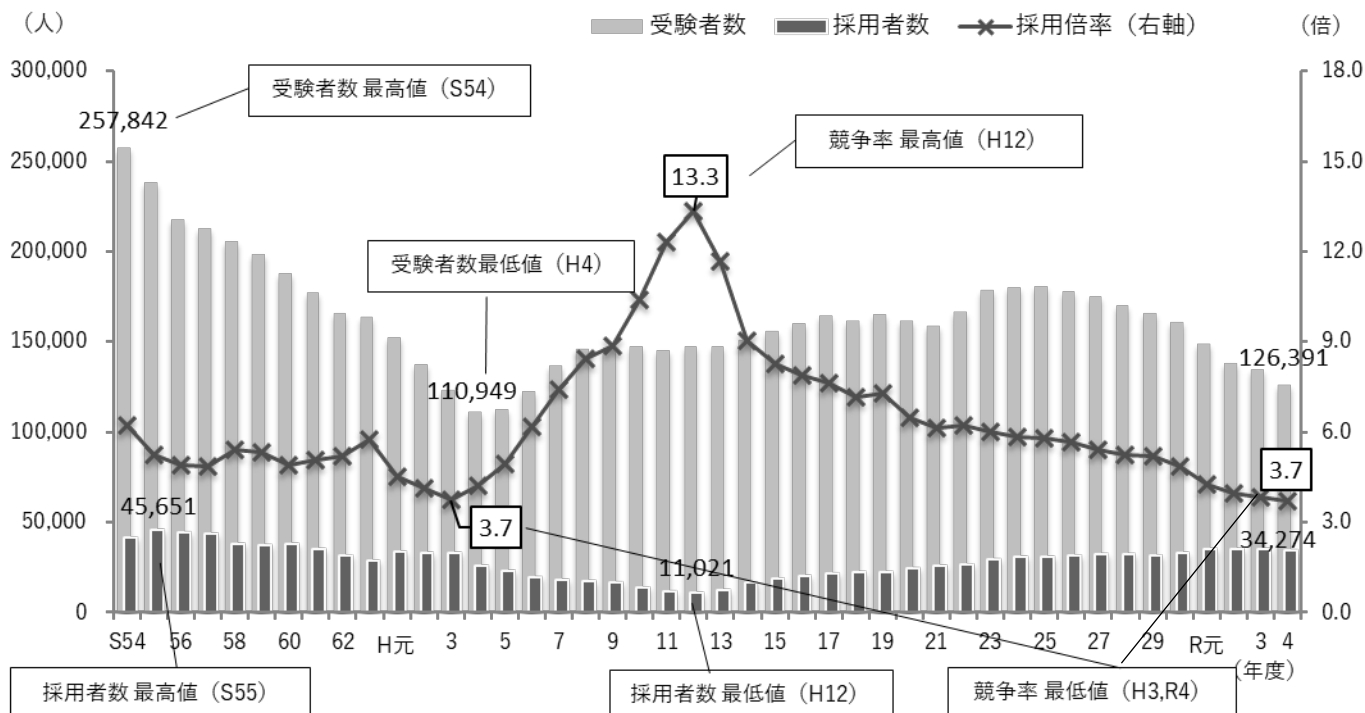
- ・採用者数は、9,140人で、前年度に比較して909人減少
- ・受験者数は、42,587人で、前年度に比較して1,518人減少(うち 新卒1,196人増加、既卒2,714人減少)

【高等学校】

競争率(採用倍率)は、5.4倍で、前年度の6.6倍から減少

- ・採用者数は、4,479人で、前年度に比較して523人増加
- ・受験者数は、23,991人で、前年度に比較して2,172人減少(うち 新卒324人減少、既卒1,848人減少)

図1 総計 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



(注)「総計」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

調査結果を踏まえた文部科学省の分析と今後の対応

1. 今回の調査結果に係る分析

(全体としての傾向)

- ✓ 採用者数は平成12年度以降増加し、ここ数年は横ばいである。平成12年度以降の採用倍率低下については、大量退職等に伴う採用者数の増加と既卒の受験者数の減少によるところが大きい。

(小学校における傾向)

- ✓ 小学校において採用倍率が過去最高の12.5倍であった平成12年度においては採用者数が3,683人であるのに対し、令和4年度は採用者数が16,152人と4倍以上増えている(図2)。
- ✓ 受験者数の内訳を分析してみると、新規学卒者は小幅な増加(256人)となった一方、既卒者は引き続き大きく減少(3,068人)している。総数としての受験者数は減少(2,812人)した。(図5)
- ✓ このような小学校における受験者数の減少傾向は、臨時的任用教員や非常勤講師などを続けながら教員採用選考試験に再チャレンジしてきた層が正規採用されることにより、既卒の受験者が減ってきていることなどが理由であると考えられる。
- ✓ また、退職者数が平成28年度末をピークに減少していること等により採用者数は令和元年度より減少に転じているが、引き続き大量採用の状況が続いており、既卒者の受験者数が減少し続けていることから採用倍率は引き続き低下している。

(中学校・高等学校における傾向)

- ✓ 中学校や高等学校については、全体として4.7倍、5.4倍の採用倍率を保っているものの、小学校と同様に既卒者の受験者数の減少が大きい(中学校2,714人減少、高等学校1,848人減少)。中学校の新卒受験者は前年に比べ1,196人増加したものの、全体の受験者数としては減少している(図6)。

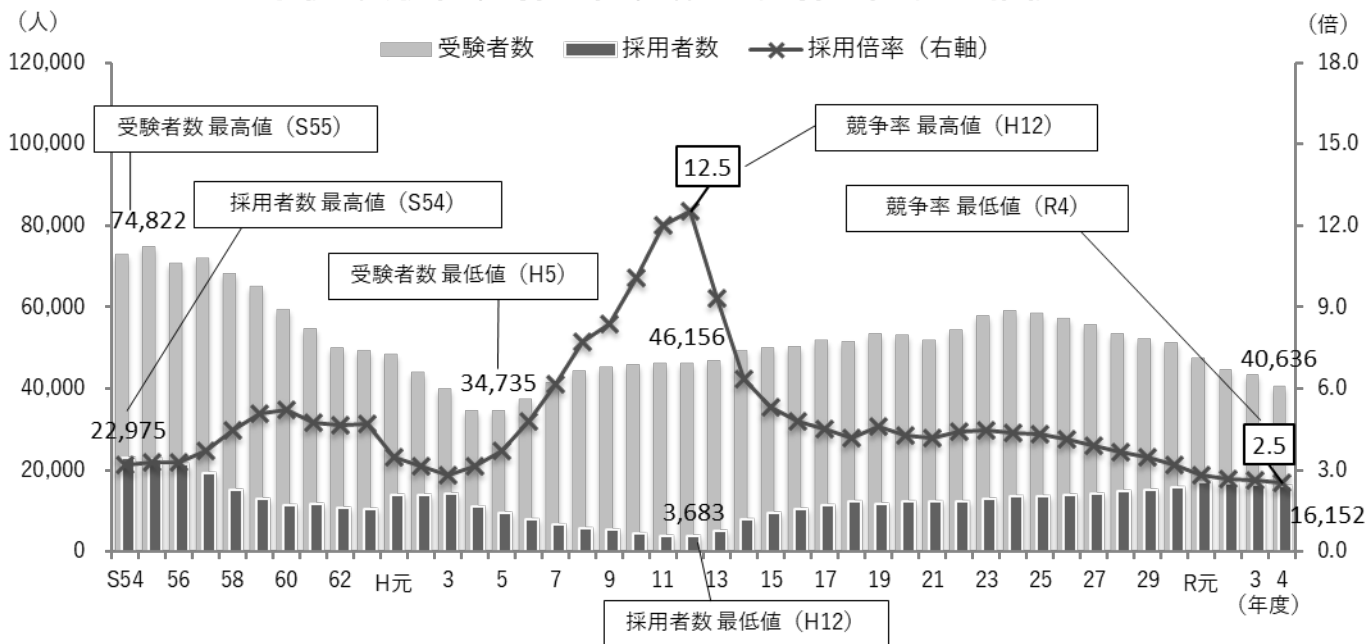
2. 上記分析を踏まえた今後の対応

- ✓ 現在各教育委員会において行われている教員採用選考試験における取組について、特に、多様な知識や経験等を加味した特別な選考について、広く知見を共有し、選考試験の改善を促していく。
- ✓ 令和3年4月より行われている中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方特別部会」において、教師の採用における改善策についても議論を深めているところ、
 - 教員採用選考試験の早期化や複線化を含めた多様な入職スケジュールの検討
 - 民間企業等に勤め、現在教職に就いていない者に対する入職支援や特別選考の実施等の取組を通じ、質の高い教師の確保に努めていく。

1. 小学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)

- 競争率(採用倍率)は、2.5倍(過去最低)で、前年度の2.6倍から減少
- 小学校において採用倍率が過去最高の12.5倍であった平成12年度においては採用者数が3,683人であるのに対し、令和4年度は採用者数が16,152人と4倍以上増えている。
- 採用者数は近年増加が続いていたものの、令和元年度をピークに減少に転じた。
- 採用者数が中長期的に安定している自治体では高い採用倍率を維持している一方、採用者数を大幅に増やしてきた自治体で採用倍率が低下している状況にある。

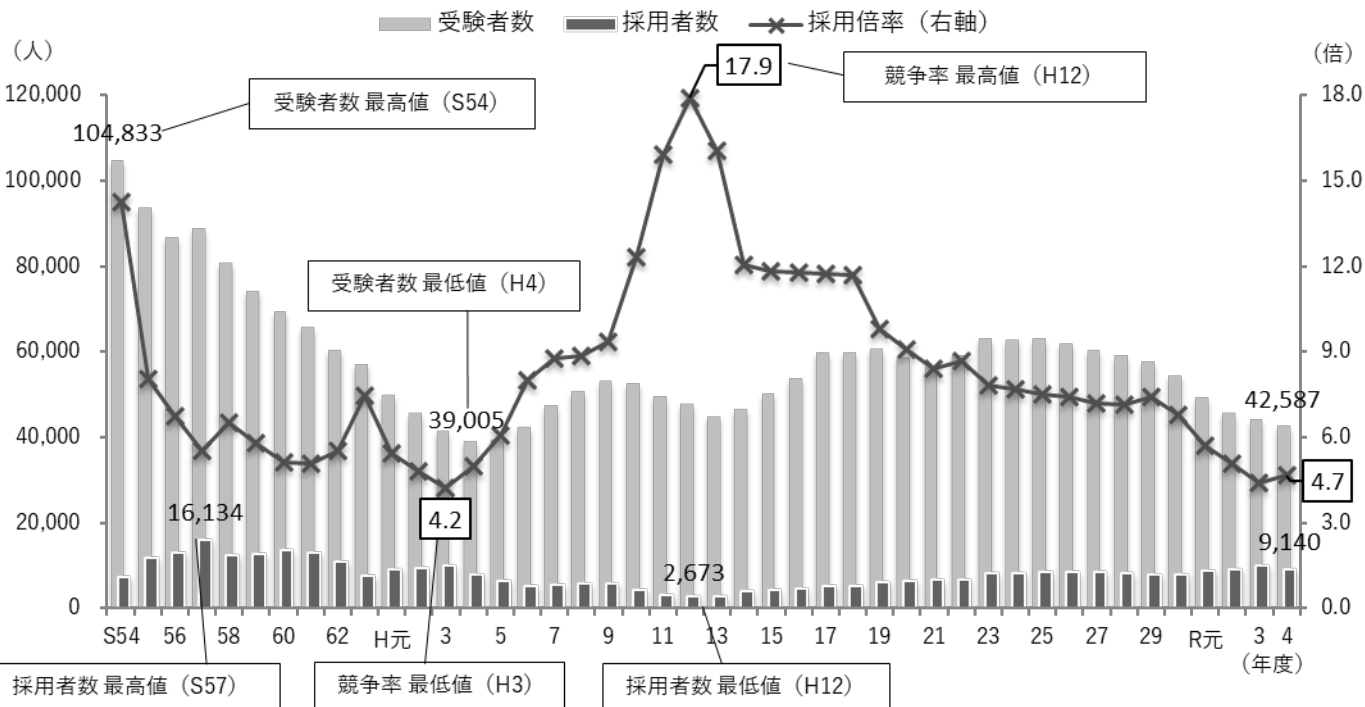
図2 小学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



2. 中学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)

- 中学校の競争率(採用倍率)は、4.7倍で、前年度の4.4倍から増加
- ・採用者数は、9,140人で、前年度に比較して909人減少
- ・受験者数は、42,587人で、前年度に比較して1,518人減少

図3 中学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



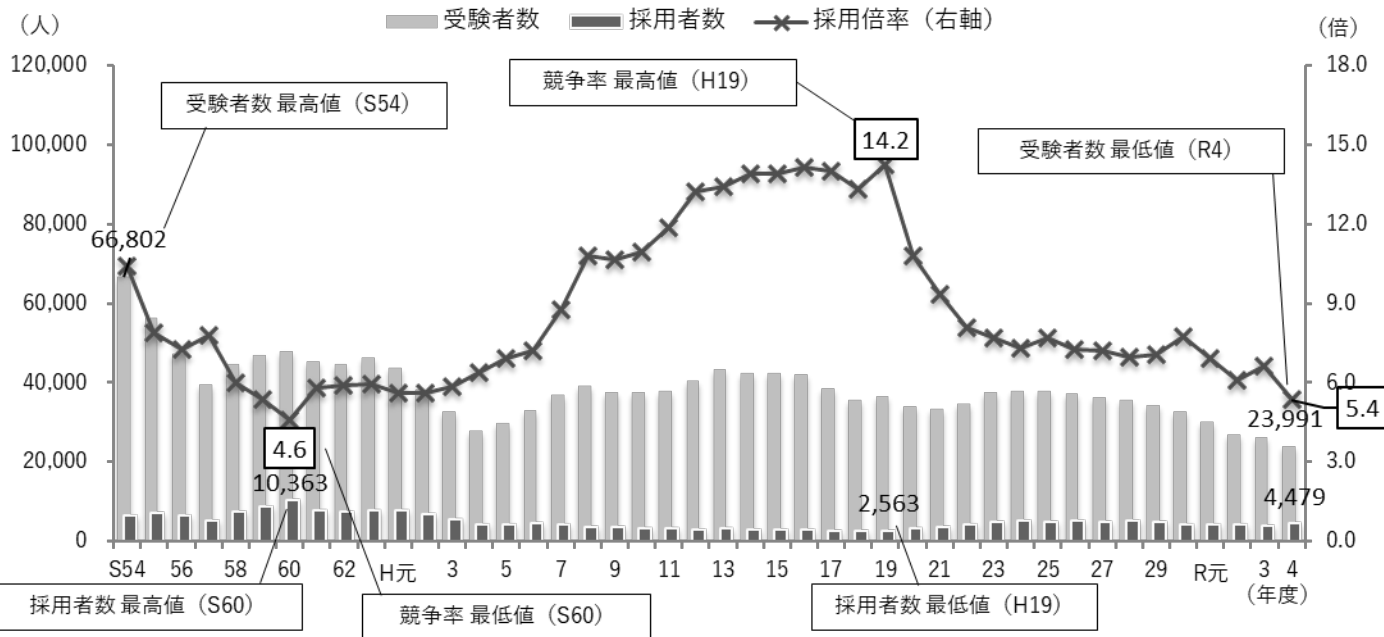
3. 高等学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)

○高等学校の競争率(採用倍率)は、5.4倍で、前年度の6.6倍から減少

・採用者数は、4,479人で、前年度に比較して523人増加

・受験者数は、23,991人で、前年度に比較して2,172人減少

図4 高等学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



4. 各県市における競争率(採用倍率)

表1 各県市別の競争率(採用倍率)

区分	小学校	中学校	計(※)
北海道	2.3	4.7	3.6(3.7)
青森県	2.0	5.6	4.9(4.6)
岩手県	2.7	4.1	4.0(3.4)
宮城県	2.0	-	3.3(3.1)
秋田県	1.3	2.6	2.7(3.3)
山形県	1.5	3.7	2.6(2.4)
福島県	1.6	5.2	3.7(3.7)
茨城県	2.1	3.3	3.3(2.7)
栃木県	2.8	3.9	3.9(3.8)
群馬県	4.2	4.0	4.7(4.5)
埼玉県	2.2	3.8	3.1(3.9)
千葉県	2.0	-	3.0(3.1)
東京都	-	-	3.7(3.0)
神奈川県	2.7	4.7	4.0(4.4)
新潟県	1.9	4.6	2.8(2.6)
富山県	1.6	-	2.0(2.2)
石川県	2.5	-	3.5(3.5)
福井県	2.8	-	3.5(3.9)
山梨県	1.8	4.2	3.0(3.1)
長野県	2.5	4.1	3.5(3.9)
岐阜県	-	-	2.9(3.1)
静岡県	-	-	4.2(4.4)
愛知県	2.5	4.1	3.8(4.1)

区分	小学校	中学校	計(※)
三重県	3.2	6.3	5.0(6.5)
滋賀県	2.8	4.6	3.9(4.1)
京都府	3.2	5.6	4.2(4.5)
大阪府	-	-	4.3(5.2)
兵庫県	4.2	4.7	4.7(5.5)
奈良県	5.1	4.4	5.4(5.1)
和歌山県	2.9	5.0	3.7(3.9)
鳥取県	3.7	3.8	4.4(4.7)
島根県	1.8	3.3	3.2(3.9)
岡山県	3.6	-	5.2(6.2)
広島県	1.8	3.2	3.0(2.9)
山口県	2.2	3.9	3.2(2.9)
徳島県	3.8	4.9	5.5(5.2)
香川県	3.6	4.0	4.6(4.6)
愛媛県	2.0	3.1	3.1(3.5)
高知県	9.2	8.6	8.8(7.9)
福岡県	1.3	2.6	2.8(3.0)
佐賀県	1.4	2.6	2.5(2.6)
長崎県	1.5	3.1	2.4(2.6)
熊本県	-	-	3.2(3.6)
大分県	1.4	3.0	2.6(3.3)
宮崎県	1.6	4.4	3.3(4.1)
鹿児島県	1.8	4.1	3.0(3.5)

区分	小学校	中学校	計(※)
沖縄県	4.1	10.5	7.9(8.8)
札幌市	(2.3)	(4.7)	(3.6)(3.7)
仙台市	2.5	-	3.0(3.7)
さいたま市	2.4	-	3.2(3.4)
千葉市	(2.0)	-	(3.0)(3.1)
横浜市	3.1	-	3.6(3.5)
川崎市	2.4	4.6	3.2(4.5)
相模原市	2.0	4.8	3.3(3.5)
新潟市	2.1	-	2.8(3.6)
静岡市	2.3	4.2	3.2(3.0)
浜松市	2.8	4.5	3.7(3.8)
名古屋市	2.7	6.3	3.8(4.4)
京都市	-	-	5.4(5.0)
大阪市	3.2	4.8	4.0(3.4)
堺市	-	-	5.5(7.2)
神戸市	6.4	8.0	7.3(7.7)
岡山市	-	-	4.1(4.7)
広島市	(1.8)	(3.2)	(3.0)(2.9)
北九州市	1.9	5.8	3.0(3.3)
福岡市	1.8	2.7	2.4(2.4)
熊本市	1.9	-	3.0(3.5)
豊能地区	3.8	7.3	5.0(4.4)
合計	2.5	4.7	3.7(3.8)

(注1)「計(※)」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

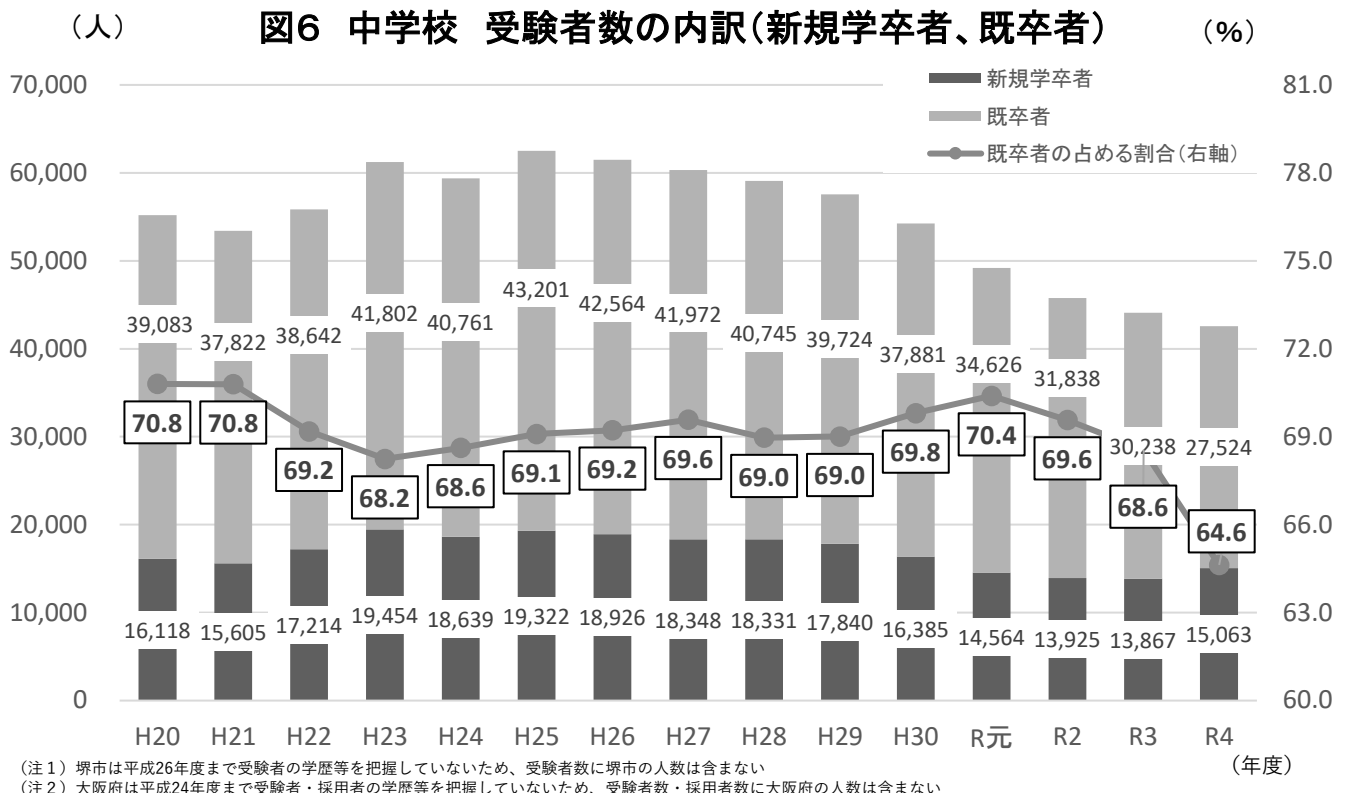
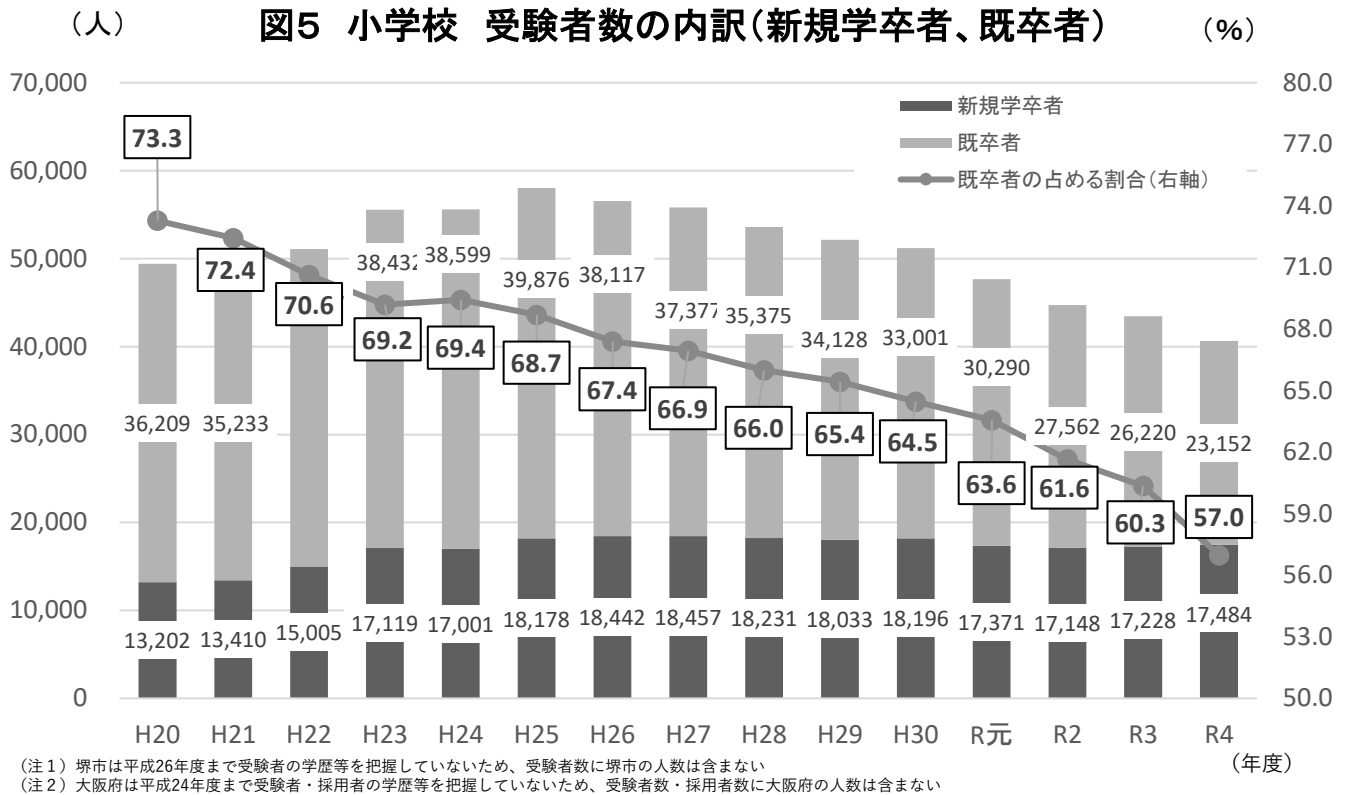
(注2)小学校・中学校(または中学校・高等学校)の試験区分を(一部)分けて採用選考を実施している県市については、「-」としている

(注3)都道府県と指定都市で採用選考を合同で実施している指定都市の競争率は、都道府県と同値を()で記載している

(注4)計欄の()内には、令和3年度の総計の倍率を記載している。

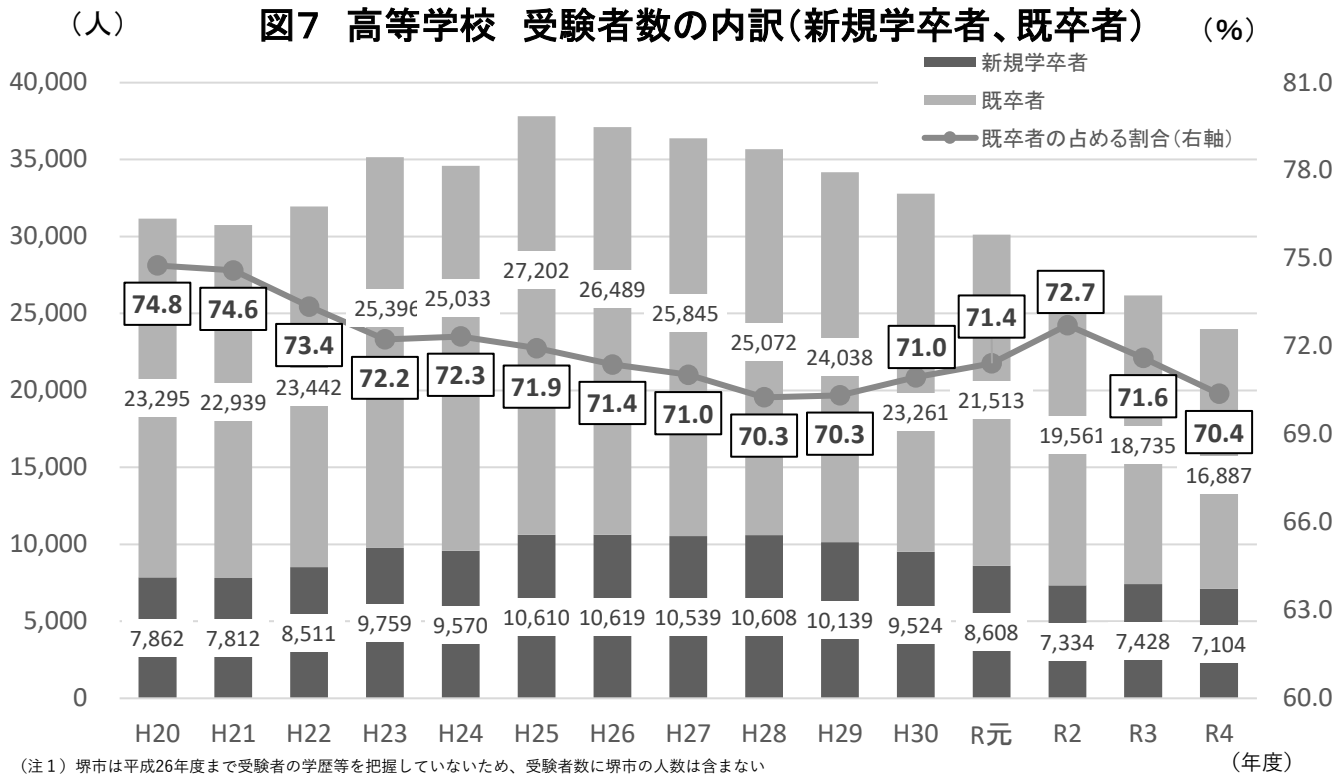
5. 受験者数の新規学卒者・既卒者の内訳

○小学校については昨年度と同様、新規学卒者が増加した一方、既卒の受験者が減少している。中学校についても新規学卒者が増加したが、既卒者が引き続き減少している。



5. 受験者数の新規学卒者・既卒者の内訳(続き)

○高等学校については新規学卒者・既卒者ともに減少している。



6. 受験者数・採用者数に占める女性の割合

○採用者数に占める女性の割合は、中学校で前年度より増加

表2 受験者数・採用者数に占める女性の割合

区分	受験者数			採用者数		
	全体	女性〔内数〕	女性の割合 (%)	全体	女性〔内数〕	女性の割合 (%)
小学校	30,975 (34,440)	16,019 (17,805)	51.7% (51.7%)	13,644 (13,978)	8,170 (8,366)	59.9% (59.9%)
中学校	29,626 (32,345)	11,354 (12,152)	38.3% (37.6%)	7,765 (8,223)	3,475 (3,565)	44.8% (43.4%)
高等学校	17,840 (20,970)	5,358 (6,340)	30.0% (30.2%)	3,974 (3,758)	1,393 (1,329)	35.1% (35.4%)

(注1) ()内は、前年度の数値

(注2) 以下の県市については、受験者の男女別内訳を把握していないため、受験者数に含まない

東京都、神奈川県、滋賀県、大阪府(小学校等以外)、大分県、横浜市、相模原市、大阪市、堺市、福岡市

(注3) 以下の県市については、採用者の男女別内訳を把握していないため、採用者数に含まない

東京都、滋賀県、大分県、大阪市

7. 採用者数に占める教職経験者・民間企業等勤務経験者の割合

○採用者数に占める教職経験者の割合は、全体で49.5%で、前年度の51.3%から減少

○採用者数に占める民間企業等勤務経験者の割合は、全体で3.6%で、前年度の3.4%から増加

表3 採用者数に占める教職経験者・民間企業等勤務経験者の割合

区分	採用者数				
	全体	教職経験者 〔内数〕	教職経験者 の割合 (%)	民間企業等 勤務経験者 〔内数〕	民間企業等 勤務経験者 の割合 (%)
小学校	16,152 (16,440)	6,942 (7,289)	43.0% (44.3%)	426 (406)	2.6% (2.5%)
中学校	9,140 (10,049)	4,850 (5,743)	53.1% (57.1%)	301 (326)	3.3% (3.2%)
高等学校	4,479 (3,956)	2,416 (2,215)	53.9% (56.0%)	283 (217)	6.3% (5.5%)
計(※)	34,274 (35,067)	16,968 (17,972)	49.5% (51.3%)	1,246 (1,175)	3.6% (3.4%)

(注1)「計(※)」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

(注2)「教職経験者」とは、公立学校教員採用前の職として国公立学校の教員であった者をいう

(注3)「民間企業等勤務経験者」とは、公立学校教員採用前の職として教職以外の継続的な雇用に係る勤務経験のあった者をいう
(ただし、いわゆるアルバイトの経験は除く)

(注4) ()内は、前年度の数値

8. 特別支援学校・養護教諭・栄養教諭 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)

○特別支援学校の競争率(採用倍率)は、2.8倍で前年度の3.1倍から減少

・採用者数は、3,063人で、前年度に比較して39人減少

・受験者数は、8,529人で、前年度に比較して1,167人減少

○養護教諭の競争率(採用倍率)は、7.2倍で、前年度の7.0倍から増加

・採用者数は、1,263人で、前年度に比較して56人減少

・受験者数は、9,051人で、前年度に比較して188人減少

○栄養教諭の競争率(採用倍率)は、9.0倍で、前年度の8.0倍から増加

・採用者数は、177人で、前年度に比較して24人減少

・受験者数は、1,597人で、前年度に比較して19人減少